

# 令和3年度病害虫発生予察指導情報

## 対象病害虫：ネギハモグリバエ（ネギ・ラッキョウ）

令和3年10月27日  
鳥取県病害虫防除所

### 1 情報の内容

- (1) 10月下旬現在、例年と比べてネギハモグリバエの被害が多くなっています。
- (2) 発生に好適な気象条件が続くと被害が増加することが予想されるので、防除を徹底しましょう。
- (3) 本種は蛹の形態で地表または地中で越冬します。本年、被害多発園では越冬数が多いと予想されますので、翌春の成虫発生時期の観察と発生初期の防除を徹底しましょう。

### 2 発生生態と被害の特徴

- (1) ネギハモグリバエの成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または地中で蛹になる（図）。
- (2) 令和元年にネギほ場において、葉に激しい食害を引き起こす別系統（以下、B系統とする）の発生が県内で初めて確認されている（令和元年度病害虫発生予察特殊報第2号）。
- (3) 従来の系統（以下、A系統とする）では、1葉当たり1～数匹程度で加害するのに対し、B系統では1葉当たり10匹以上の幼虫で集中的に加害する傾向がある。B系統に食害されると、ひどい場合は葉全体が白化する。
- (4) ネギハモグリバエは、鳥取県では年6回成虫が発生すると推定されている（鳥取県農業試験場）。弓浜地域では、4月下旬にタマネギ畑で初発が見られ、5月下旬以降、集中的にネギ畑に飛来・産卵する。6月中旬頃には発生のピークとなり、7～8月に密度が高まる。ラッキョウ畑では5月中旬、9月中旬に発生のピークが見られる（中原ら、1968）。
- (5) 成虫の発生時期について、有効積算温度（井口,2001、徳丸,2010）を用いて推定すると表のとおりとなる。

表 ネギハモグリバエ成虫の発生開始時期の推定

成虫の発生回数	平 年	2021 年
第1回（起点）	4月10～30日	4月10日
第2回	6月上旬	同左
第3回	7月上旬	同左
第4回	7月下旬	同左
第5回	8月中旬～下旬	8月中旬
第6回	9月上旬～中旬	9月上旬
第7回	10月中旬～下旬	10月上旬

日本植物防疫協会のJPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションver2を用いて、鳥取地方気象台鳥取観測所の気象データの平年値を基に推定した。



図 ネギハモグリバエ（左：被害発生ほ場、中：幼虫の食害、右：成虫）

### 3 防除上注意すべき事項

- (1) 現在のところ、ネギハモグリバエの系統による違いで薬剤の効果が異なるとの報告はないため、防除薬剤は各地域の防除暦等を参考にする。
- (2) 被害葉及び収穫残さは、ほ場内に放置せず適切に処分する。